

# デジタル・コンテンツの流通の促進に向けて

～製作プロダクションは今  
何をなすべきか～

テレコムスタッフ(株)寺島高幸

平成20年2月

# 製作プロダクションの現状

## 陰

- 経営基盤が脆弱 資産は人的資源というプロダクションが多い
- 放送局との相対取引の中で コンテンツの著作権が持てない
- メディアの多様化の中で制作費の低下

## 陽

- デジタル機器の普及化で 機材保有が可能
- NHKの共同著作化や予約購入システム  
民放局の窓口権の解放の動き
- 自己資金でのコンテンツ制作の動き

しかしながら 陽はほんの一条の光にすぎない

# 製作プロダクションにとつての コンテンツ流通とは

- 創り手やコンテンツに対するリスペクトを取り戻す
- 制作者自らのタグ付けやメタデータ付与により 小規模ながらより効率的な流通システムを構築する
- 製作プロダクションの自立に向けた試みと若手創り手のインセンティブを高める

# 放送局も含め制作現場の実情

若手制作者が制作現場にこない 定着しない

- 賃金格差
- 将来性が見えない
- 労働環境が改善されない
- 現場に若手を養成教育する余裕がない
- テレビコンテンツにかっの魅力がない
- 制作に誇りが持てない

明日のテレビの創り手がいない

放送界が制作現場 足元から崩壊してゆく

ATPのテレビルネッサンス／ 人材プロジェクトの立ち上げは以上を  
焦眉の問題として捉えた